

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [豊橋中央高等学校] 担当教諭名 [近藤己裕・高倉嘉男] (2年A組 31名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [National Shan-Hua Senior High School] 担当教諭名 [Chi-Chen Wu / Terry Yang]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な探究の時間	修学旅行事前学習	4
	HR	修学旅行事前学習	4
	補習	補習	10

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	コロナ禍に起こったポジティブな変化やストーリー
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	コロナ禍の困難な時期だからこそ人々が実感した愛情あふれる物語やそれを克服するために世の中にもたらされた革新を語り合い、ポストコロナの世界を明るいものにする世代になろう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
昨年度から世界中でコロナ禍が続き、学習テーマも引き続き新型コロナウイルスに設定した。2年連続同じテーマで学習することへの抵抗もあったが、生徒たちは新鮮な視点でテーマをさらに前に進めることができた。1人1台端末の導入も追い風になった。	本来ならば台湾修学旅行と一体のプログラムとして組み込んだ協働学習だったため、2年連続で台湾での直接交流ができないことが大きな障害になっている。AICLの時間も、修学旅行事前学習として確保しているため、修学旅行中止により影響を受ける。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
当初は、英語で話すこと、スライドを作ること、台湾の生徒と交流することすべてに消極的だったが、オンラインミーティングで相手の顔が見えることにより、徐々に彼らの中のハードルが下がっていった。グリーティングカードの交流もあって、最終的には好感を持った生徒が多かった。	アートマイルに取り組む前から、本校は台湾と交流があったため、相手の国に対する意識の変化はそれほど大きな変化はなかった。英語が日本の生徒よりも堪能で、レベルが高いと感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	Google Meetを使い、双方合計100名の生徒たちがお互いに自己紹介をした。日本側は紙を使い、台湾側はPower Pointを使った。	はじめての交流に緊張していたが、韓国のアイドルなど共通して好きなものが見つかった生徒などは、盛り上がっていた。	総合 HR
共有 テーマ学習	10月	Google Meetを使い、協働学習テーマについて班別に発表した。日本側は7班が小テーマを決めて発表した。	東京オリンピック・パラリンピック、働き方改革、ネット環境の発達、おうち時間の過ごし方について調べた。はじめての英語でのスライド作成に苦戦していた。	総合 HR
融合 メッセージ作成	11月	Google Meetを使い、各班の学習テーマに従った絵を提案して、壁画のデザインを決めて行った。グリーティングカードも交換した。	絵が描くのが苦手な生徒が多く、抵抗があったようだが、一生懸命スライドを作成した。	総合 HR
創造 壁画制作	12月	期末試験後、午前中授業となる期間の午後を使い、補習のない生徒たちが交代で壁画を制作した。5日間の作業で完成し、12月20日に台湾に披露した。	部活動が忙しく壁画制作に関わることができた生徒は一部だったが、行事などでクラスで活動する機会が減っている中、協同作業を楽しんでいた。	総合 HR 補習
評価 振り返り 自己評価	3月	3月17日のESD振り返り会で、中心に関わった生徒たちが全校生徒の前でAICLの活動を報告した。	級長が自分の思いをのせて、報告することができた。コロナ禍で海外交流などが減ってしまっている中で、今回の活動がよい経験になった。	なし

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	アートマイルに加え、修学旅行の事前学習も含めて、交流する相手の台湾を理解しようとする生徒の動きが見られた。文化祭では台湾カステラを販売し、台湾について調べてまとめた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	時間的な余裕も少なく、英語でスライドを作成すること、英語で話すことに精一杯で、自分の発表の内容を深めることや、相手の発表を理解する段階に至らなかった。
主体的に考え行動する力	4	グループに分けたことにより、主体者が増えた。誰かがやらねばならないと考え、自分たちで時間を見つけて取り組んだ。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	海外の相手や台湾人に対して偏見を持っていた生徒もいたが、徐々に心の壁が壊れ、対話しようとする生徒が見られた。現地訪問できなかったことが悔やまれる。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	グリーティングカードでは、台湾側から届いたものがとても素晴らしいものばかりで、生徒たちは圧倒され、その感謝の気持ちをリモート会議で伝えていた。壁画制作も積極的に取り組んだ。